第７回国土交通中部地方有識者懇談会

「まんなか懇談会」

（第７回議事録）

平成16年2月26日開催

－奥野　信宏　委員（名古屋大学副総長）－

中部地方を中枢性を持ったブロックとして形成することが重要

今回の「ビジョン」に掲げられた計画を実施するにあたっては、広域的なブロックをどのように形成していくかということが、行政的な面においても非常に大事であると思います。中部経済連合会でも道州制が検討され始めるなど、地方分権の大きな受け皿となる広域的なブロックの形成が全国的に検討されているところですが、中部地方についてこれを考えますと、ブロックとしてのまとまりというものはなかなか見つけにくいのではないでしょうか。北陸まで含めた地域についての議論を行いますと、中部地方とは何ぞやという議論になり、中部地方とはどこまでを指すのかということが非常に大きな問題になってくるわけであります。

例えば、福岡の場合、データを見ますと九州全体、それから山口あたりまで、人・物・情報の流れにおける中枢性が福岡に見られます。大阪にもそのような中枢性は見られますし、東京ももちろんそうでありますが、東海圏においては、愛知県を中心とした周辺との人・物・情報の流れが他の地域に比べて非常に少ない。愛知県は他の地域の面倒を見てくれないというような不満がよく聞かれます。

この地域における先々のことを考えますと、中部ブロック圏というまとまりが必要になってきます。「まんなかビジョン」に掲げられた事業を実施していく上では、これを広域的ブロックの形成にどのように活かしていくかという視点が大事ではないかと思います。

名古屋駅周辺など都心部における災害対策が課題

第２点として、都市災害についての問題があります。あるアンケートによると地震などの災害が起こった場合、企業は保安要員をわずかに残す以外は、職員を全員帰宅させると答えています。名古屋駅一帯は旅行者も多いところですが、名古屋駅周辺で実際に災害が起こった場合、人々を避難場所に誘導したりする人が誰もいなくなってしまう恐れがあります。

また地震が突然起こった場合、例えば劇場や鉄道関係の方々は、人々を施設の外、つまり道路までは安全に誘導するけれども、それから先は自分たちではどうしようもない。混乱した中でありますから、相当の権力でもなければ広域避難場所に誘導することは難しいのですが、広域避難場所まで誰が誘導するのかということについても現段階では全く考えられていません。名古屋では都市災害への対策ができてはいないというのが正直なところではないかと思います。

東京の大手町、丸の内、有楽町を見ますと、まだまだ十分ではないと思いますけれども、名古屋駅一帯よりはそういった対応ができていると思います。名古屋においても、例えば事前に災害時の広域的な誘導方策を定めておくなど、都市災害に対して十分に備えておくことが大変大事なのではないかと思っております。

－須田　寛　委員（東海旅客鉄道（株）取締役会長）－

中部地方への重点投資の重要性を強調すべき

全体的なことをはじめに申し上げます。「まんなかビジョン」については、全体的には大変カラフルに、ビジュアルにできていて、非常に内容がわかりやすくできていると思います。これからの中部地方のインフラは重点化を行い、事業を絞って進めていくことが必要です。現在は国の公共投資が全体的に制約される傾向にありますが、他の地域への波及効果が大きく全体的な利益を生むインフラ整備については、重点的に投資し、整備を進めていくことが重要です。このようなインフラは中部地方には非常に多い。例えば環状道路も西半分を作れば、それだけで画期的なものになる、東海北陸自動車道が全線つながれば地域全体が変わる等、「まんなかビジョン」の中にもこのような事業については具体的な記述で説明を加えるとよいのではないかと思います。中部の公共投資については、これから日本の公共投資が全体的に抑えられていっても、ここではまだまだ事業を進める必要があるということと日本の真ん中はそのような場所なのだということを強調されたらどうかと思います。

中部ブロックの広域的な総合計画策定にあたっては「ビジョン」を活かしていくべき

また総論的なことでありますけれども、現在国の方で、六全総的なものを作ろうという動きがありまして、今度は中央の計画ではなくて、むしろブロック単位で、地方で主として作業を行っていくようです。「対流」という言葉を使うのですが、地方と国の計画とを対流させて、お互いに関連し合いながら一つのものを練り上げるということが考えられています。今後は公共事業における地方の作業のウエイトがどんどん高くなっていくと思いますし、また、それが非常に大事なことだと思います。

今後、ブロックごとの地方が主となった総合計画が策定される際には、せっかく中部地方には「まんなかビジョン」ができたのですから、この今日の作業がなるべく今後の作業につながり、活かされていくことが望ましいと思っています。また、これから中部地方でどういう受け皿を作ってその作業をするのかということについてもそろそろお考えいただき、かつ経済界でも考えていく必要があります。この資料がどのようなつながりを持ってこれからの作業に活かされていくかということに非常に注目しております。

「ビジョン」ではメリハリをつけた表現を心がけるべき

次に具体的な点について３点ほど申し上げます。まず細かいことになりますが、「ビジョン」の表紙に「いっしょに創りましょう」と書いてあり、この中に駅弁の絵が描いてありまして、すべてのものが詰め込まれております。これはまさに総花式の代表例です。表紙としてはこういうものではなく、たとえば、きれいな国土の写真を出す方がよいのではないでしょうか。

それからもう１つは「ビジョン」の内容についてですが、長期と短期を分けて書いてありまして、当面の主要プロジェクトがございますが、たとえば中部空港の整備のような今年行わなければいけないことと中期で見ないとできないことが混在しているような気がするのです。これについても別に資料を分ける必要はありませんが、メリハリをつけた表現が必要なのではないかということを２番目に申し上げます。

重要な項目については索引をつけるなど「ビジョン」を読みやすくする工夫を

３番目に、観光の問題についてです。観光を取り上げていただいたことは大変ありがたいと思います。ただ、取り上げていただいているのですが、どこに観光についての箇所があるのかを探し出すのに大変苦労します。私は、中部の観光には３つの柱があって、１つは都市の特色を生かした都市の観光、もう１つは、モノづくりの町にふさわしい産業観光、それから、この付近にたくさんある街道、文化を訪ねて道をたどる街道観光というこの３つがあると思うのですが、この３つが「ビジョン」のあちこちに分散しているように思います。例えば街道観光であるならば３１ページあたりでもう少しクローズアップしていただいてもいいのではないかという感じがします。それから、産業観光であれば３７ページ、都市観光であれば名古屋のツインタワーの絵の描いてある所にもう少し入れていただいたらどうか。三重県の取り組んでおられる熊野古道とか中山道、東海道など、重要な事業がたくさんあるわけです。都市についても名古屋が新しい観光地として注目されようとしておりますし、産業観光もいろいろ新しいプロジェクトがございます。観光や景観など主要な分野については特にクローズアップして取り上げるとよいのではないでしょうか。

景観にしても産業観光にしても、重要な項目がいろいろな所に分散をしておりまして、それだけを見たい場合でも、各項目が全体のどこにあるか分からないので、結局「ビジョン」の全体を通して読まなくてはいけません。そうすると印象が散漫になりますね。主要なものについては、例えば景観とであればどことどこを見れば書いてある、産業観光はどことどこに書いてあるといった、簡単な要約と参照ページを入れた索引を入れるなどの工夫が必要なのではないでしょうか。

また、やや字が小さいですから、私にもちょっと見にくい点が多々ある。ここまで考えられたのですから、もう一ひねりして、もう少し読みやすいように、字を大きくするなどデザインをもう少し変えると非常によくなると思います。

－渋谷　代一郎　委員（日本政策投資銀行東海支店長）－

今後１，２年の間に行われる事業の重要性を打ち出すべき

３点ほどご意見を申し上げさせていただきます。１点目は、このビジョン自体が１０年先、２０年先を目指したもので、事業の範囲が広く設定されているのですが、私はこれからの１、２年の事業がまず重要ではないかと思います。例えば、中部国際空港と万博など、今後１，２年で実施される主要なプロジェクトとそれに関係する事業だけでも「まんなかビジョン」からピックアップして抜き出し、その重要性を訴えていければよいのではないかと思います。

「ビジョン」は絶えずフォローアップしていくことが大切

２つめは、社会資本全体をいかに機能させるかということについてです。これについては「ビジョン」の「将来像を実現させるための基本スタンス」にまとめられていますが、既存のストックも含めて、ハード、ソフトをいかに結びつけて機能を発揮させるかということが社会資本整備を進める上では大切です。

また住民参加も大切だと思いますが、住民「参画」というと、第三者的といいますか、主体性が見受けられない感じがします。地域の人たちがもっと主体的に知恵と行動を発揮できるために

は、具体的にどのような方策が必要なのかを考えていかなくてはいけないと思います。

須田委員から「字が小さく読みづらい」というご発言がありましたが、アウトカムを考慮する際には、顧客指向、つまり利用者の視線で考えていくことが重要で、それを強く意識していく必要があります。

最後に、これはあくまで「ビジョン」（＝将来の構想）ということですが、やはりこれを今後いかに実行していくかということが大事であり、そういう意味で「これからの取り組み」に書かれている「３つのフォローアップ指針」は非常に重要なことだと思います。特に「不断のフォローアップ」の説明のなかにマネジメントサイクルということばが出ていますけれど、プラン・ドゥー・チェック・アクション（PDCA）を常に実行して、うまくいかなければ反省をしてまた対策を考えて実現させるということが重要ではないかと思います。

－箕浦　啓進　委員（中日新聞社メディア局長）－

中部地方の独自性をもっと強く打ち出していくべき

ひと通り目を通させていただきましたが、「まんなかビジョン」は大変よくできていると思います。このビジョンのように、幅広い分野における事業が一冊に網羅されたものを作るという意味はあると思いますが、問題はこの一番基本に流れる考え方は何なのか、何が一番大事であり、何のためにこれを作るのかという基本理念が見えにくいということです。「ビジョン」の根底にある基本的な考えをもう少し表へ出せないかという気がいたします。

中部地方の特色は、関東や関西と違って拠点が分散しているということでして、拠点が分散しているということは取りも直さず、それぞれの地域に固有の文化、生活があるということです。今回、中部地方でこのような「まんなかビジョン」を出すのであれば、それぞれの地域について、他の地域とは違う固有の歴史に基づいた特性、個性を活かした方向づけというものが打ち出せるのではないか、むしろ、そういった方向を先に出しておいて、それを実現していくために道路整備などの社会資本整備や関連するプロジェクトを行なっていくというのが、本来の順序ではないかという気がいたします。

住民の目線から見た政策体系のあり方も考慮する必要があるのでは

それから、ビジョンの「７つの目指すべき方向（政策体系）」について、１から７まで順番に「目指すべき方向」が書いてあるのですが、１番目のモノづくり、産業の国際競争力から始まって、都市の整備や交通の整備が続いています。産業の面から見ればこの順番でよいのでしょうが、中部地方に暮らしている住民側から見ると、むしろ下の方に書かれている方向が一番身近なものです。豊かな生活環境や、安全・安心な地域づくりを実現するために、産業も必要であるし、交通体系も必要であるという、住民側から見た視点もあるのではないかと思います。

－中村　幸昭　委員（鳥羽水族館館長）－

世界遺産ではない文化遺産の保存にも取組むべき

中部地方に来られる集客交流の中で、日本だけでなく国際的な視野から見ると、たとえば上海から中部国際空港（セントレア）まで２時間で飛んで来られるようになるなど、今後ますます海外から日本を訪れる旅行者が増加すると考えられ、近い将来、東海地方を足場に中部地方で観光に関係していろいろなことが行なわれるだろうと思います。

その場合に、新規の公共投資も必要なのですが、そういったプロジェクトとは別に、古い街道を残すとか、あるいは町並みを残すとか、日本古来の文化を集積した所を保存することも必要なのではないか。国土交通省においても、文化庁や環境省とは違った立場からそういった歴史・文化遺産の保存をおこなっていくべきではないか。たとえば中部地方は、世界遺産に登録されておりますのは岐阜県の白川郷、そして三重県の熊野古道が近く遺産として登録される予定でありますが、我々が持っております世界遺産ではない、身近な文化遺産についても、今後積極的に保存していく方法を考えていただきたいということが第１点であります。

地震に備えた防災施設等の管理の徹底を

２点目は、東海地震などの今後発生すると想定される災害についてです。先日、東京で開かれた地震予知連絡協議会で伺ったのですが、地震の予知は非常に難しいということでして、地震というものは、明日起こっても不思議ではないし、あるいは５０年先に起こるかもしれない。天災はいつやって来るかわかりません。もちろん、備えあれば憂いなしなのですが、たとえば伊勢湾沿岸には防潮堤がたくさんできたのですが、問題になるのは、コンクリートの防潮堤には浜に降りるための開口部があって、実際に地震が起きたときにそこを一体誰が閉めるのかということなのです。せっかく防災施設があっても、災害時にそれを管理する体制が十分にできていないのではないか。

愛知県、三重県の海岸線の場合、伊勢湾とか熊野灘がありますから一番脅威なのは津波なのです。その津波への対策はどう準備しておくべきか。これは高い所に逃げるほかないので、津波が来るという警報が出た場合に一刻も早く高台に住民の避難誘導を行わなくてはいけない。避難場所の設営と災害時の避難場所への誘導方策ということが一番必要だろうと思います。

昨今は地震が来る地震が来ると、マスメディアも人心を煽っている傾向が見られるようです。税金の無駄遣いとは言いませんけれど、あまりにも災害予防に囚われ、そればかりに投資をしすぎると、他の重要な公共投資がなおざりになってしまうのではないかということを私は憂いております。

海外からも多くの人が訪れる中部地方が展望できる「ビジョン」を

最後に観光についてですが、中国の方々を対象とした旅行目的のアンケートによれば、東海地方に来たら、まず温泉に入りたいというのが第１位となっています。続いて２番目に、本場の真珠を見たい。３番目には、富士山を新幹線の車窓から見たい。４番目が、刺身を食べてみたいという結果になっています。これからの中部地方は外国人にとっても魅力があって、海外からたくさんの人が訪れる地方であってほしい。「まんなかビジョン」は、そのような今後の中部地方が展望できるものにしてほしいと思います。

－谷岡　郁子　委員（中京女子大学学長）－

特定の層を代表しがちな意見を補うための取り組みが求められる

今回出していただきましたものは、少し字が見づらいこともないではないのですが、全体的に構造も、デザイン的にもよくできていると思います。先ほど、キーワードについては検索できるように索引を入れたらどうだという須田委員のご意見がありましたが、これは大変いいと思います。

全体的な評価については以上なのですが、今回出していただいた資料の中で、住民の満足度調査の結果と討論会からの関心度というものがほとんど逆方向を向いていることに、私は非常に大きな関心を持ちました。つまり、従来型の国土の事業などによく上がってくるような、いわゆる産業推進型と申しますか、経済的な拠点づくり型といいますか、そういうものが討論会で上がってきていて、いわゆる住民の意識調査では反対に、安全であるとか環境であるとか自然であるとか循環型社会であるといったことが上位を占めている。

どうしてこういう全く違う２つの傾向が出てくるのか。これは討論に出てくるタイプの人たちが旧来型の人たちに占められるような抽出の構造がどこかにあるということを示してはいないだろうか。だから住民意識調査において、若年層や女性の関心度が低くなってしまうような傾向が出ていると言えないだろうか。たとえば、この部屋にいる人たちを見ても、ここでテーブルを囲んでいる女性は１１人中、２人でございますし、若者と言われる人は一人もいなそうですね。この部屋全体を見渡しても、そういう傾向がある。

女性を何パーセント増やすとか若者を入れろとかそういうことを私は申し上げているのではなく、えてしてそういうバイアスがかかりがちであるという限界をいつも視野に入れていること、そして、それを補うための意見の補完をどういう形でやるかということを常に考えていくことがすごく重要だと私は考えています。

今回のアンケート調査を行ったことは大変いいことだと思いますし、これからぜひ続けていただきたいと思います。しかし、たとえば、こういう形で識者と呼ばれる人々が集まって討論するときに、ある意味で排除されている一定の人たちがいるのだということを常に意識すること、つまり周囲への目配りが必要です。このような目配りを欠いていては、国民のための国土づくりということができないのではないかというのが、先ほどの調査を見て私が感じたことでございます。

表紙にはコミュニケーションとしてのインフラ整備がよく表現されている

そういう意味においては、私はこの表紙は好きです。なぜならば、私の友人たちである多くの主婦たち、あるいは私が教えている女子大生たちは、これを見て「国土交通省が、こんなものを作るようになったんだ」と言います。この表紙を見ると国土交通省が変わってきているということを強く感じると思いますし、またそのことによってすごく親しみを感じてくれると思います。ブータンでは国の道路を作っているのはコミュニケーション省だということを聞きました。地域が互いに交流し、コミュニケーションをする、そのためのハードウエアとして道もあるという視点なのですが、まさにそういう視点に立ちますと、このお弁当は中部の各地方の食材が集まってできているのですが、それぞれ地域の農産物や水産物は交通ネットワークを通してはじめて、ひとつに集まっておいしいお弁当になることができる。このお弁当はコミュニケーションとしての

インフラ整備の重要性を象徴しているのではないかと思います。

表紙の裏にお弁当の解説が書いてあるわけですが、たとえばこの写真を白黒の図にしてしまって、それぞれの具がどこから来たのか、わかるような解説を加えれば、これ自身にもはっきりとした意味が出てきてよいのではないかと思います。もしこの表紙が名古屋城だったら私の友達や学生のほとんどは見ないと思います。お弁当であるが故に見る人も多い。この目線はぜひご理解いただきたいと思いますし、その意味でこれは大変優れた表紙だと思います。

社会資本整備においては、計画段階から幅広い層の意見を丁寧に集めることが重要

これから一番問題となるのは、お金もそうですけど、時間のロスです。経済・社会のあり方が非常に早く変化する時代においては時間が何よりも重要なことだと思います。特に社会資本整備事業における時間のロスを防ぐためには、計画の段階からできるだけきちんと地域の声を集めて、しっかり対応しておくことによって、実施の段階におけるスピードは飛躍的にアップします。計画段階から住民を交えた議論をおこない、住民の意見を丁寧に集めつつおこなう事業とこれをおこなわない事業それぞれに必要とされる時間は、何カ月と何年、あるいは何年と何十年という差になってあらわれます。

そういう意味で、計画段階において人々の声を反映していくことが大事で、しかも、こうやって業界的に集まる人だけではなく、いかに幅広い層の人々を集めるかということが大変大事になってくると思います。今後、ぜひそういう部分でのフォローアップをよろしくお願いしたいと思います。

－桑田　宜典　委員（（財）岐阜県県民ふれあい会館理事長）－

今後事業を実施していく際には、引き続き地域の声を吸い上げていくことが必要

「まんなかビジョン」の策定にあたっては、幅広くいろいろな意見を聞いていただいきました。これはまさに対話と協働作業の成果であると思いますし、よくおまとめいただいたことに敬意を表します。

ただ、これから具体的に事業を実施していく場合には、現在、国家財政も地方財政もほとんど破綻に近い状況において、これをどういう順位でやっていくかということが非常に重要になってきます。またいわゆる４県１市といいますか、中部地方におけるこのような連携作業が非常に重要になってくるのではないかと思うわけです。

事業の実施にあたっては、やはり、少ない税金を使うわけですから、これまでおこなわれてきたように地域の皆さんの声をよく聞いて、税金をどこへどういう形で使っていくのかということに対して、地域の理解を深めていただく方策が引き続き重要であると思っています。

今回住民の満足度調査も実施されましたが、これを見ると、関心が高いけれども満足度が低い項目が少なからずある。これらの項目については、今後事業を実施していくにあたって、よく地域の意見を吸い上げていただいて進めていくことが必要ではないか。そういったフォローアップを絶えず行っていくことによって、地域の方々がこの地域に住んでよかったということを実感いただけ、この計画を身近なものとして捉えていただけるのではないかと思っています。

－水谷　研治　委員（中京大学教授）－

地域が社会のために犠牲を払い、積極的に投資を誘致する意識が必要

将来の地域のあり方について考え、事業を実施していく場合、多くのことは民間がやるべきことであると思っていますが、今回の「ビジョン」のように行政が中心となって策定する計画においては、基本的な社会資本整備が計画の中心になると思っています。

中部地方では万博と空港というビッグプロジェクトがありまして、これまでこのふたつを軸に中部に重点的に投資が行われてきました。今年についてはこれを推進していく以外にないわけでが、これらの事業が終わってからどういうことが予想されるかといいますと、おそらく今行われている投資のほとんどがなくなってしまうと思います。財政面からいきましても国、地方ともに投資を続けるような余裕はありません。

現在、全国的に見まして、この地域に相当の公共事業が集中しているのではないかと私は思っているのですが、なぜ集中しているかといいますと、国家プロジェクトがあるから集中が起こっているのでして、これは地域の住民が一生懸命お願いをしているから投資が行われているのでは全くありません。その意味では、私ども地域の住民の意向によってではなく、別の次元によって決定されている。したがって、ひとたび状況が変われば投資は地域から引き上げられてしまう。果たして地域にとってそれでいいのでしょうか。

日本の真ん中にあるこの地域が全国の人に、あるいは世界の人に利用していただくための社会資本の整備は今後とも必要なのだと、私は考えています。そのときに、重要だ、重要だと言えば整備が行われるのかといいますと、なかなか難しい。乏しい資金をある地域に投入するためには、地域の人が本当に熱心にそれを誘致しなければいけないのではないかと思っています。しかし、従来中部地方はそういうことを熱心に行ってきていません。熱心に行わなくても、公共事業投資が行われ続けてきた。そのような点が他の地域とはずいぶん違うような気がします。

それでは、今後地域の発展のためには何が必要かといいますと、それは、社会資本の整備にあたっての、地域の協力であろうと考えています。地域の協力ということは、それぞれの人が相応の犠牲を払う必要があるということを意味しています。例えば、地域に道路を通す場合、その周辺の人がそれだけの犠牲を払わなくてはいけません。これから本当にこの地域をよくしていくためには、それぞれの立場の人がそれぞれ犠牲を払う必要がある。全体のために犠牲を払いましょうという気持ちが地域にないとその地域は発展していかないのではないか。このことは行政あるいは政治家にはなかなか言えないことであります。だからこそ、その必要性、重要性をこの懇談会で強く謳っていくべきではないでしょうか。

－東　恵子　委員（東海大学短期大学部助教授）－

中部地方の特色と重要性を意識して「ビジョン」を打ち出していくべき

私は昨年度行われましたビジョン討論会の清水会場のコーディネーターを務めさせて頂いたのですが、その際、以前のパンフレットを紹介して意見交換をしたときに、パンフレットが立派にまとめられ過ぎていて、教科書のようだというご意見がありました。先ほどの住民アンケート調査を見てもそうですが、こういった社会資本の整備の将来的な構想が市民の身近なものにどのように具現化していくのかというプロセスがなかなか見えにくいものではないかと感じています。

先ほど、この中部地方は今まで大変豊かな地域だったという水谷委員からのお話がありましたが、私も全国のいろいろな地域を見て回ったのですが、他の地域に比べて、中部地方は非常に豊かな、恵まれた地域であるという感があります。ところが、その豊かさについて、５県１市それぞれの地域がこのようにひとつの「ビジョン」としてまとまってしまうと、中部地方の豊かさが全国の中に埋没してしまい、中部地方が全国の中でどれほどの位置にあるかということが非常に見えにくくなってしまうのではないでしょうか。

この中部地域が全国の中でかなり特異性がある地域であるということ、モノづくり大国であり、観光立国でもあり、現在国家プロジェクトも集中している。いま、中部地方がなぜ日本の屋台骨を支えなければいけないのかということをより明確に出して、他の地域とは違ったかたちで、このビジョンの発信を進めていくべきではないか。そして、それを住民の人たちにも理解してもらうことが非常に大事ではないか。

中部地方における地域間のネットワークを形成していくことが必要

私は静岡県で地域の仕事をしておりますが、東北６県と静岡県１県の経済規模が同じという話を最近聞きましてびっくりいたしました。やはりそれぞれの地域では「地域力」が違うということを明確に出してもいいのではないか。その中でこのビジョンのそれぞれのプロジェクトがあるのだということを表わした方が、住民も理解できやすく、地域の住民も頑張らなければならないという気持ちにもなってくるのではないかと思っています。

それと、いつも思うことは、たとえば愛知万博にしても、静岡で行なわれる花博にいたしましても、それぞれの関係の方たちのネットワークはあるのでしょうが、地域の住民が積極的に、他の中部地方に出かけていこうとする気運が少ないような気がします。中部地方の住民の方々は、自分の地域以外の場所で何が行なわれているのかということをあまり知らないまま、それぞれの地域の範囲内で生活をされている。これまではそれでも特に不自由はなかったのでしょうけれども、やはりこれからの１０年、２０年は、地域の住民同士のネットワークを活かした地域づくりも必要になってくるのではないでしょうか。中部国際空港もそのためにプロジェクトとして整備されていると思っておりますし、例えば観光についても空港を拠点にして伊豆や静岡や白川郷が連携すると、特色ある観光ネットワークができやすくなるとも思っています。そういったネットワーク型のソフト事業とでも言えましょうか、地域間のパートナーシップによって中部地方において何か新しい仕組みが作れないものかと思っています。

海もまた魅力的な観光資源である

最後に、これは全体を見た感想ですけれども、中部の海は日本海と違って一年中明るく、太平洋に向かって広がっております。人口は少ないですが、クルージングを楽しむ生活も人々の間に浸透してきています。観光という視点の中では、そういった中部の海を活用したネットワークの部分が全然記載されていません。日本海と違う、また九州の海とも違う、中部の明るさを持つ海も魅力的な観光資源としてぜひどこかに入れていただきたいと思っております。

－松尾　稔　委員（名古屋大学総長）－

事業の実行を意識した重点化や優先度についても強調されるべき

ビジョンについては、非常によくまとまっていると思いますが、ここに盛り込まれた内容を実際に事業として動かしていくにあたっての検討が少し足りないのではという感があります。

たとえば桑田委員がご発言されましたが、事業を進める上での重点化や優先順位についても強調されなくてはいけない。あくまでビジョンですから実際のアクションということにはあまり入り込んでいないということは、それはそれでいいのかもしれませんが、フォローアップの部分にそのような気構えももう少し書いておく必要があるのではないでしょうか。

将来の時代変化に対応できる柔軟性をもった「ビジョン」であるべき

このような計画を進めていく際には、「進化性」が必要だと思うのです。ビジョンを書いた後で、いろいろと具体的な事業が出てきますが、行政が主導するということになると、その後のフォローアップを、いつ、誰がチェックしていくのかということが分かりづらい。事業を進めていくと、どこかで修正がかかってきて当然だと思うのです。時代も変わるし、経済も変わってくる。だから、進化性を持った、フレキシビリティを持ったプランになっているということが重要であり、その点について、具体的に誰がそういうことを、いつ頃、責任を持って見ていきますということも少し盛り込んで頂きたい。

「ビジョン」の中に住民を巻き込む仕掛けが必要

それから、水谷委員と東委員が非常に強調されていましたが、地域の住民と一体となって社会資本を作っていくことが非常に重要です。行政と住民の協働を図ることによって住民の方にやる気を起こさせる、またその住民のやる気によってまた行政がやる気を起こさせてもらうという好循環が生まれます。今までのように、お上が作ったものをともかくお使いなさいというものとは違うビジョンを立てていくということについての記述も必要なのでは。

例えば「はじめに」という文章を読んでも、やっぱり、ちゃんと意見は聞いてあげたよ、それで作ってあるよ、と書いてありますが、やはりお上が書いた文章になっています。そうではなくて、ここには、そこに住んでいる人々、あるいは地域の人たちの中から湧き上がってくるような、中部の社会資本整備を地域と一緒になって進めていくという気持ちがもう少しこもっているとよいかと思います。つまり、ちょっと辛口に言いますと、メニューはうまくできたのだけど、お客さんが入って来ないという印象があります。「ビジョン」を活かして、地域の人々をここに呼び込む仕掛けみたいなものが不足しているのではないでしょうか。

－中村　幸昭　委員（鳥羽水族館館長）－

中部の豊かな農林水産業も「モノづくり」に加えてはどうか

中部地方はモノづくりの拠点だということについては異論はないのですが、モノというと一般的に、車を作ったり、電化製品を製造したりするということが中心になっていると思います。

現在、「地産地消」ということが盛んに言われておりますが、実は、中部地方は農林水産物の豊かな所でもあります。たとえばお茶の全国の生産トップは静岡、鹿児島、三重と続きます。水産物は全国で三重県はいつも水揚高ベスト５に入っているわけです。カツオ、マグロといえば焼津港を中心とした遠洋漁船があるわけです。農業生産額は豊橋がトップで、他にも愛知県の安城などがあるなど、多様な農林水産の拠点が中部地方には豊富にあります。

地元産業の活性化という意味でも「モノ」の中にぜひ、車や電化製品だけではなくて、そういった農林水産物も入れてほしい。各地を見ると中部地方は農林水産においても非常に豊かな土地であるということをもう一度考えて、こういうことを国内だけではなく海外にも積極的にアピールしていくべきだと思います。

－西尾　武喜　委員（（財）名古屋都市センター理事長）－

「ビジョン」では２０年後の中部地方の具体的な姿も見えるとよい

「ビジョン」に掲げられた今後５年間のプロジェクトにつきましては、全地域に渡って詳細に図面も入れていただいて、大変なご努力だと思って感心しております。

ただ、１８のプロジェクトといった今後５年程度の事業については非常にはっきりとしていますけれども、目標年次が１０年から２０年という長期にわたる計画ということになりますと、具体的に、２０年後の将来には中部はこうあってほしいというものはあまり載ってないのですね。

２０年後の姿を創造しますと、たとえばリニア新幹線が動き始めるのではないか、第２東名が全部結ばれるのではないか、あるいは新しい空港に高速道路がもう１本必要なのではないか。鉄道関係でいきますと、都市の踏切についての問題を解消しなくてはいけませんし、今後問題になってきますのは、過疎地から電車等公共交通がなくなってしまったとき、過疎地に住む老人の足をどうするのか、というような課題が考えられます。

希望のようなものでもよいので、そのような20年先の具体的な中部の姿が見えるものがどこかにあってもいいのではないか。ビジョンとして長い目で見なくてはいけないものをどうするか、どこかで具体的に考えておく必要があるのかなと感じたわけであります。